

「これから伸びる 100 アイテム」サンプルのご紹介

アイテム名称 : 偏光板

- ◇書籍のサンプルとして「偏光板」市場をご紹介します。
- ◇TVなどのディスプレイ関連のアイテムであっても、市場成長の波及効果は基材フィルムや染料などの化学薬品、粘着材に留まらず、乾燥機器、搬送機器などの機器分野にも及びます。
- ◇2017年度までの市場規模予測、メーカーシェア、波及効果など、専門研究員の解説をお楽しみください。

《これから伸びる 100 アイテム》

偏光板

1. アイテム概要

概要	偏光板とは、特定方向に偏光、又は偏波した光を通過させる機能を有しており、ディスプレイ向けに使用される偏光フィルムを指す。偏光板は主に TFT-LCD 向けに使用されるが、そのほか TN・STN-LCD や AMOLED 向けにも使用される。		
用途市場 (対象市場)	ディスプレイ (TV、モニター、ノート PC、SmartPhone、Tablet PC など)		
参入企業	LG 化学、●●●●、●●●、BenQ、サムスン SDI、●●、サンリッツなど		
アイテム キーワード	・光学フィルム	年平均成長率 (2013 年度-2017 年度)	●●.●●%

◆解説

・LCD タイプ別では TFT 向けが圧倒的で全体生産量のうち約●%を占める。TN・STN は車載向けのセグメント表示器や家電、スマートメーターなど小型 LCD 表示画面に使用され、中国を始めとする新興国向けに根強い需要がある。ただ、SmartPhone や Tablet PC といったハイエンド中小型モバイル機器の普及に伴い上記用途向けでも TFT クラスの画質を求める傾向が強く、TN・STN 市場は TFT に代替され縮小傾向にある。

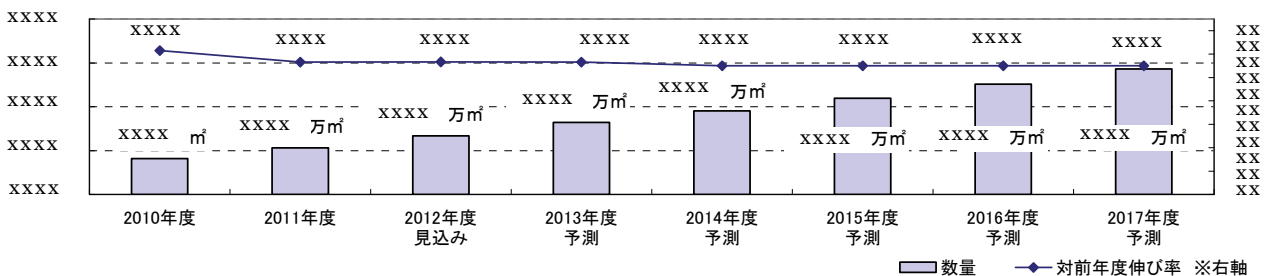
2. 市場規模予測と企業シェア

2-1. 偏光板の市場規模予測 (世界)

(単位: 万㎡/年度)

	2010年度	2011年度	2012年度 見込み	2013年度 予測	2014年度 予測	2015年度 予測	2016年度 予測	2017年度 予測
数量	XXXX	XXXX	XXXX	XXXX	XXXX	XXXX	XXXX	XXXX
対前年度伸び率 ※右軸	XXXX	XXXX	XXXX	XXXX	XXXX	XXXX	XXXX	XXXX

[矢野経済研究所推計]



◆解説：2015 年度

(ポイント 1：2014 年度の急成長の反動で 2015 年度は伸び率が鈍化)

- ・2015 年度における偏光板市場規模は前年度比●.●%の●億●,●●●万㎡/年であった。2014 年度は各パネルメーカーが大型パネルの製造に注力したことで近年稀にみる急成長をみせたが、2015 年下半期よりパネルメーカー側での在庫整理が本格化し大幅な生産調整が行われたため、2015 年度の偏光板市場は前年度の反動も含めそれほど伸びない結果となった。

(ポイント 2：TV の大型化が下支えに)

- ・2015 年度の LCD パネル市場では主力の TV 向けで●" から大型サイズへのシフトが進んだ一方で、台数ベースの伸びでは苦戦を強いられたパネルメーカーが多い。ただ、偏光板にとっては大型 TV への需要シフトに伴う面積拡大が寄与したため同年度の市場が拡大した。いわゆる「32" TV 離れ」は 2014 年より急速に進んでいる。韓国大手パネルメーカーである●●、●●、台湾陣営の Innolux、AUO で UHDTV 向けパネルの増産を本格化、これに加え中国大手●●、●●でもボリュームゾーンは●" から●" クラスへと主力インチが拡大している。

◆解説：2016 年度以降の市場拡大

(ポイント 1：近い将来の成長を握る鍵は、中国で本格化する LCD パネルの大幅増産)

- ・2016 年度における偏光板の市場規模は前年度比●.●%の●億●,●●●万㎡/年となる見込み。同年においてもインチ拡大が進む TV 向けの成長が下支えになるとみられる。なかでも、●●パネルメーカーによる大型 TV 向け生産の拡大が追い風になると予想される。韓・台大手パネルメーカーが苦戦するなか、LCD などディスプレイ産業における積極的な投資や大幅な技術力の向上など、資本力と実力をもった中国パネルメーカーの成長が目覚ましい。2016 年以降はこれまで●●～●●を手掛けてきた●●パネルメーカーの大反撃が予想される。

(ポイント 2：「32" TV 離れ」により面積拡大)

- ・2016 年以降はローカルや外資系の●●以上の大型 LCD 製造ラインの稼働や「32" TV 離れ」が加速する●での TV パネルの生産台数及び生産面積の拡大が予想され、唯一の成長市場となった●●こそが偏光板市場の牽引役になるとみられる。

※偏光板市場は LCD パネルの生産量や在庫調整の動向により大きく変動するほか、TV 等の需要変動の激しいアプリケーションの影響をダイレクトに受ける。また、今は●勢の躍進など LCD パネル業界が過渡期を迎えている。現段階において 2018 年度以降の市場規模の算出は困難であるため割愛した。

2-2. 偏光板市場の企業シェア

●●●●	・●●●●最大手偏光板メーカー。2014 年度より偏光板市場トップへ
●●●●●	・日本以外に●●・●●●●に現地生産の子会社をもつ●●●●最大手
●●●●●●	・他社の一歩先を行く技術力を有する偏光板市場のリーディングカンパニー

◆解説

(ポイント1：偏光板市場のトップは日系を抜いて●●)

- ・2015 年度における偏光板市場トップは前年度に続き●●。2014 年度の反動により市場の成長率がやや軟化したなか、大口顧客である IPS 大手の●● や●● 向けの出荷が堅調であった。
- ・続いて●●グループ(●、●●、●)。台・中国 VA 陣営向け販売が安定的であるが、主力ユーザーである●●向け販売量が減少したことで偏光板の出荷量は大きくは伸びなかった。
- ・偏光板市場で業界トップシェアの地位にあった●●は2014年の● TV 向け出荷減が響きシェアダウンしたものの、近年では IPS 市場攻略に注力し IPS 陣営向け出荷が増加している。

(ポイント2：IPS 陣営向け販売促進で●●、●●●●の巻き返しが予想)

- ・2016 年度における偏光板市場のトップメーカーは引き続き●●となるとみられる。●●は偏光板メーカーのなかでいち早く●●進出を決定したメーカーでもある。2016 年 Q1 には新規増設ラインの●●・第● ラインを稼働させ、2016 年 Q4 には追加新規ラインである第●ラインを稼働させる予定である。●●は●●をはじめ●●●●など●●●●大手パネルメーカーを主要顧客として有し、●●市場でさらに存在感を高めていくとみられる。
- ・2 位は●●最大手●●●●●。VA 陣営向けに最大の量を捌き上位ポジションは揺るがない。近年では●●や●●など IPS 陣営向け販売拡大にも力を入れている。2016 年初頭には大型製造ラインの新規増設が相次ぐ●●で偏光板前工程の新設を発表し、●●マーケットへの本格的な参戦に名乗りを上げた。
- ・3 位は群を抜いた技術力で他社を圧倒する●●。SDC TV 向けの低迷が響くも、最先端の IPS 技術を追求し LGD TV 向けの出荷増が見込まれる。近年では IPS 市場攻略に徹する姿勢をみせ、●●●●●拠点や●●など●●●●●●向けの出荷拡大に専念している。

3. 偏光板市場が拡大することによる波及効果

波及効果 1	偏光板用光学フィルム、副資材 ・TAC フィルム、●●●●、●●●●、●●●●、●●●●
波及効果 2	塗液材料（コーティング材）、粘・接着剤 ・反射防止フィルム、●●●●、●●●●
波及効果 3	機械・装置 ・偏光板製造設備、●●●●、●●●●、●●●●、●●●●、●●●●

4. 偏光板市場の展望と課題

参入企業の成功要因	参入企業の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・薄型化への対応力 ・新規材料のハンドリング力 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術開発力 ・低価格要求への対応
<ul style="list-style-type: none"> ・TV のインチ拡大 ・中国パネルメーカーの成長 	<ul style="list-style-type: none"> ・単価下落が進行 ・中国市場での競争が激化
市場成長の機会	市場成長の脅威／阻害要因

◆解説

- ・LCD パネルの単価下落により偏光板ビジネスは、値下げ要求が重くのしかかり利益が出しにくい事業になったとの業界内の声もある。しかし、偏光板そのものにおいても、またシェア獲得に向けた各メーカーの戦略においても、「偏光板事業の進化」が止まらない。キーワードとして、新規材料の活用(●,●,●)、●●●技術、●●●や●●などが挙げられる。
- ・近年では「●●マーケット」が偏光板市場を大きく変えようとしている。●●の成長市場となった●●での成功こそが、偏光板市場での勝敗を決めると言っても過言ではない。●●以上の大型投資が続く●の●、●●に加え、広州に生産拠点をシフトさせている●●や中小型の生産が中心であった●●拠点での大型生産を強化している●●など、大型新規ラインの本格的な稼働により、2017 年以降の●●市場での偏光板の需要量は急拡大していくとみられる。